

「和食」の文化遺産登録に思うこと

ジェイカムアグリ株式会社

取締役 齋藤久登



新年明けましておめでとうございます。

平成27年の年頭に当たり、本誌「農業と科学」をご愛読頂いております皆様へ一言ご挨拶を申し上げます。

弊社は、平成21年10月にジェイカムアグリ社として発足し、お蔭様で節目の5年が過ぎました。この間、皆様の温かいご支援ご鞭撻の下、「日本と世界の農業及び関連分野に肥料事業等を通して貢献する」「顧客から信頼される公明正大な会社運営とする」を2大モットーに従業員一同がんばってまいりました。今後も、日本の肥料業界をリードしていく気概を持ち、皆様のご期待に沿えますよう努力いたす所存でございます。

さて、一年程前に、「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産として登録されましたことは記憶に新しいことでもあります。この登録とその活動を機会に、伝統的な食文化の面から日本人の特質とは何か？と、思い巡らした人も多かったと思います。農水省資料によりますと、「和食文化」を言い換えれば、『日本人の気質は「自然の尊重」であり、それを体現する「食に関する社会的慣習」である』と解説されています。

個人的には、「和食文化」が「栄養バランスに優れた日本の食生活」を通して我々の健康に寄与していますことを重視しております。言うまでも

無く、この効能は日本の国土で育まれた「新鮮で多様な食材」が有つての賜物であります。作物の栄養である肥料を農家の皆様にご使用頂く弊社の立場からしますと、望まれる食材を安全安心かつ安定して供給して頂くことの一端を担っている思いが有ります。同時に、「和食文化」に寄与させて頂いているとの思いに達し、身が引き締まります。

日本の経済は、昨年の消費税増税と再増税の先送り、加えて円安傾向やTPP問題を抱える中で先行き不透明な状態であります。日本の農業活動も大きく影響を受けていくことでしょう。

しかしながら、日本が世界に誇る「和食文化」は、次世代に引き継ぐべき普遍的かつ重要な文化であります。短期的な経済活動の波に飲まれることなく、日本人が日本人として守っていくべき財産であります。弊社は、肥料の製造販売を通じて農業活動の一端を担い、伝統ある「和食文化」を守るべく引き続き貢献できますよう努力を続けていく所存です。

最後になりますが、本年も本誌「農業と科学」のご愛読を引き続きお願い申し上げますと共に、さらなる内容の充実をお約束いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。